

急浮上、跳ね上がりのリスクを解消！

本質安全の垂直2段サイクルラック「ARS²」好調 累計販売数3000台を達成

OSS

愛知県小牧市に本社を置くOSSは垂直2段駐輪機ひとすじの専門メーカーだ。本質安全のコンセプトで製造された同社のサイクルラックは、国内のみならず、海外でも高い評価を得ている。その機能、実績の一部を紹介する。

設計思想は、本質安全。 垂直2段駐輪機の頂点へ

OSSは2009年の設立以来、本質安全のメインコンセプトの下、安全性、短納期、低価格を追求して垂直2段サイクルラックの製造を推進してきた。同社が2017年に発売を開始した、最新モデル「ARS²」が好調だ。垂直2段ラックは、スペースに対してより多くの収容台数を実現するという面で絶対的なアドバン

テージを持つが、従来品では、急浮上・跳ね上がりが懸念事項として指摘されていた。「ARS²」は、新開発された独自機構により、このリスクを解消。上段ラックは急浮上、自然落下をしない。萬が一仕様外や操作を誤った際に移動した時に発生する金属的な衝突音が低減され、低騒音を実現。周辺への影響、またユーザーにとっても嬉しい配慮だ。

現在「ARS²」は順調に納入され、累計販売数3000台(2018年2月15日現在)を実現している。

以下、現状の納入先のニーズ

自転車を取り出した後に、自動的にラックが上段に戻る“オートリターン”機能も便利で好評だ。ソフトな感触で停止するので、ラックが最上段から最下段に移動した時に発生する金属的な衝突音が低減され、低騒音を実現。周辺への影響、またユーザーにとっても嬉しい配慮だ。

現在「ARS²」は順調に納入され、累計販売数3000台(2018年2月15日現在)を実現している。

以下、現状の納入先のニーズ



伊丹市、私鉄沿線駅前公共駐輪場

を分析する。

①公共駐輪場：安全安心のコンセプトにより採用されるケースが増加中

②民間新築マンション：操作性の向上と安全性が評価されて導入台数が増加

③民間マンションの改築：従来機よりも格段に向上了した操作性が認められ導入台数が増加。電動アシスト自転車の増加により、30kg対応仕様のラックも納入数が増加。20kg仕様のラック同様、幅広いニーズに応えている



伊丹市、JR線駅前公共駐輪場

海外でもシェアを拡大中！

一方、海外に目を転じると、中国でも、自転車需要増加に対応して、駐輪場が整備され始めた。ダウンタウンではシェア自転車駐輪場が建設され、郊外では地下鉄駅前で、自家用自転車の駐輪場が建設されている。

中国でも日本同様に、自宅～(自転車)～地下鉄～(自転車)～ダウンタウンへと、用途ごとに自転車を利用する環境が整いつつある。駐輪スペースに対し、最大限の駐輪台数を安全に確保できる垂直2段サイクルラック「ARS²」は、中国でもシェアを拡大していくだろう。商品ラインアップは、20kg(15~22kg)対応のARS20Sと、30kg(23~30kg)対応のARS30Sの2種類で展開。オプションのウェイトを追加することで、20Sを10kg(10~15kg)対応の10S仕様、もしくは30Sを20kg対応の20S仕様に変更することも可能だ。



北京地下鉄駅前の駐輪場。自家用自転車が2段ラックで収容されている



北京のダウンタウンの駐輪場では、モバイク、ofoのシェアサイクルが上下2段で収容されている